

# 無電柱化の推進に関する 取組状況について

---

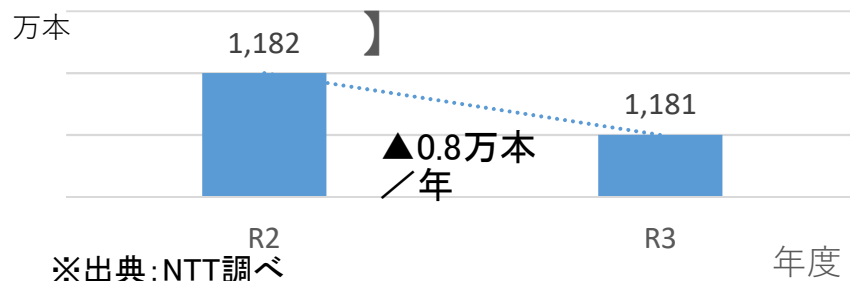
令和5年1月  
総務省総合通信基盤局

## 新設電柱（NTT柱）の調査結果（令和4年度第2四半期まで）

- 各四半期で減少となっている
- 新設のうち約4分の1が開通申込によるものとなっている
- 補助事業の竣工に伴う開通申込対応、支障移転等の対応数減等の影響により、第2四半期は微減となっている

	新設		撤去	合計
	開通申込	支障移転	支障移転等	減
<b>NTT合計</b>	<b>10,764</b>	<b>29,806</b>	<b>43,067</b>	<b>▲2,497</b>
第1四半期	5,676	15,788	23,527	▲2,063
第2四半期	5,088	14,018	19,540	▲434

【参考：既設電柱（NTT柱）の推移

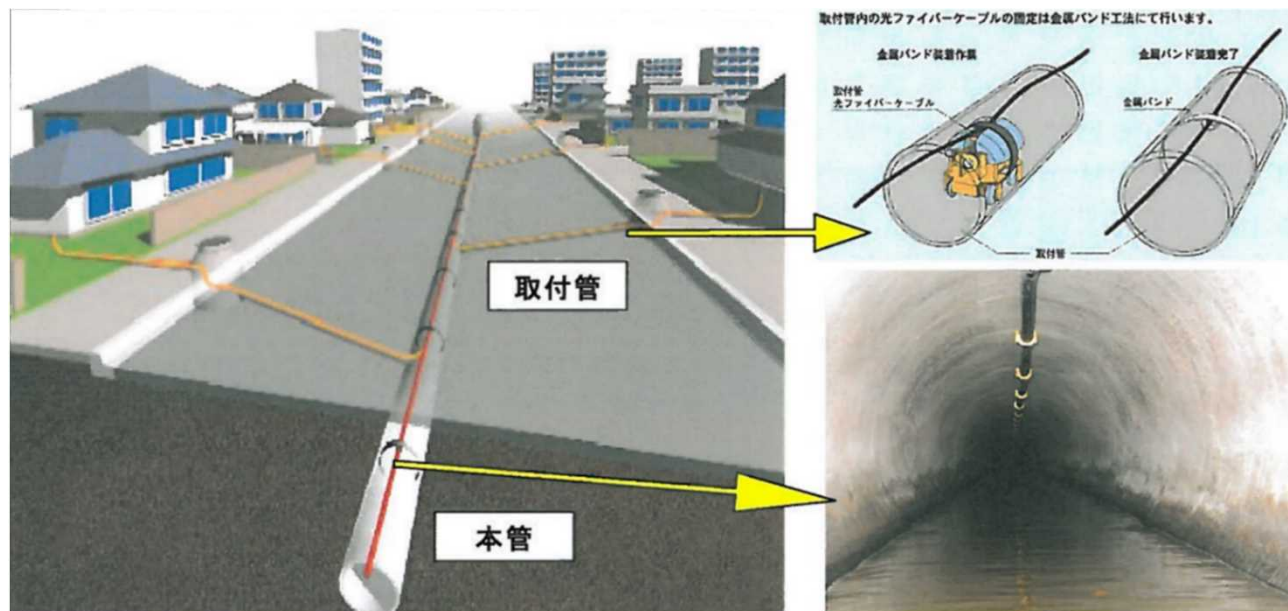


【主な削減要因】

- ・ 効率的な配置検討
- ・ 電力線との共架等

## 光ファイバーの地中化を図るための下水道管の活用

- 電気通信事業者による下水道管を利用した光ファイバーの敷設が進んでいないことから、NTTが実証することで技術的な課題や制度的な課題を把握する。
- 昨年度の実証では、下水道管の老朽化による補修工事の計画や光ファイバーの敷設工事によって下水道管の耐久性に支障が生じる可能性がある場合は、申請時の光ファイバー敷設ルートを変更する必要があること等を把握。
- 今年度は光ファイバー敷設工事前の現地調査と工事を実証することで、技術的な課題や制度的な課題を把握する。



国土交通省：下水道におけるICT 活用に関する検討会より抜粋

# 光ファイバーの地中化を図るための下水道管の活用

## ・対応方策

電気通信事業者（NTT等）が下水道管を利用した光ファイバーの敷設を実証することで、技術的な課題や制度的な課題を把握する。

## ・昨年度の実証結果

- ▶ 昨年度においては、下水道を利用した光ファイバー敷設にあたっての各プロセス（下図参照）において、「利用ルート案等の情報収集」及び「現地調査の申請」について実証、その他プロセスにおいては机上検討や事業者へのヒアリングを行った。
- ▶ その中で、利用ルート検討や利用期間における課題等を把握した。  
（例：下水道管の老朽化による補修工事の計画や敷設工事によって下水道管の耐久性に支障が生じる可能性がある場合は、申請時の光ファイバー敷設ルートを変更する必要があること等）

## ・今年度の実証

電気通信事業者の管路・幹線光ケーブルと下水道管路・光ケーブルの接続（工事）を実証することで技術的な課題や制度的な課題を把握する。

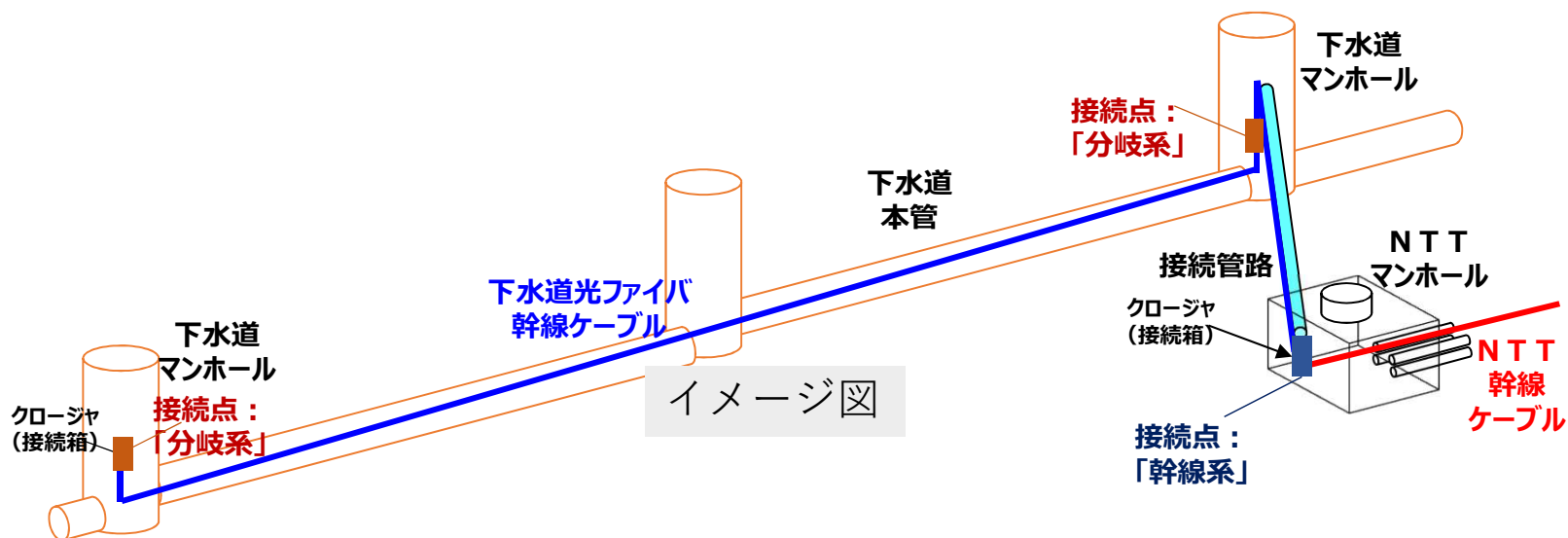


## 令和4年度調査研究の概要（下水道管路を利用した光ファイバー敷設作業による実証）

- ・ 令和3年5月に「無電柱化推進計画」が公表、令和3年度から5年間で4,000kmの無電柱化に着手することを目標。
- ・ 下水道を利用した光ファイバーの敷設は、低コスト手法の一つと期待されており、令和4年度は、試験フィールド（地上）での詳細設計、敷設作業及び作業手順書等を作成のうえ、課題、検討事項及び提言等を取りまとめ、無電柱化の推進に寄与。

### <実証概要>

- ・ 配線点等で、電気通信事業者の幹線ケーブルを電気通信事業者のマンホールから分岐させ、下水道設備へ「新設する接続管路」を用いて敷設する。
- ・ 下水道光ファイバとして確立している技術を活用し、下水道光ファイバ幹線ケーブルを敷設する。
- ・ 接続点は、電気通信事業者の幹線ケーブルと下水道幹線ケーブルをつなぐ「幹線系」、下水道幹線ケーブルをつなぐ「分岐系」までを実証する。
- ・ 実証期間：契約締結日から令和5年3月31日
- ・ 実証概要：（実証環境での）現地調査や詳細設計、敷設作業、接続確認及び伝送試験など



# 相談受付窓口と情報提供体制

- 自治体や関係事業者がNTTと無電柱化の調整が難航した場合に総務省へ相談する受付窓口を、総務省HP内に設置
- 関係省庁が同様の事例を把握した場合に、総務省へ情報提供し、事実関係の把握と調整を行う体制を整備

※ 相談等の受付実績：0件（R4.12現在）

